

3)タマネギ新品種候補「月交18号」

北海道農業試験場 作物開発部 上席研究官・野菜花き研究室

1.はじめに

北海道の春播きタマネギの品質は都府県の秋播き品種と比較すると、硬質で辛みが強い。これらは必ずしも不利な特徴ではないが、近年のF₁品種ではその傾向が強く、用途によっては食味の低下が指摘されている。そこで、秋播き品種に近い品質を備え、かつ春播き品種と同等の高い貯蔵性を有するF₁品種の育成を図った。

2.育成経過

秋播き品種に近い球品質を備え、かつ従来の春播き品種と同様の高い貯蔵性を有するF₁品種の育成を目標にした。米国USDAより導入した細胞質雄性不稔系統「2935A」を種子親とし、新潟県園芸試験場育成の「長生」から選抜育成した「CS3-12」を花粉親とした交配組合せで、球のりん葉が厚く、軟らかく、辛みが少ないなど秋播き品種に近い球品質を有し、雑種強勢により生産力も高く、貯蔵性も従来の春播き品種並に高いF₁系統が得られたので、平成5年から8年まで生産力検定試験および系統適応性検定試験を行った。

3.特性の概要

1)形態的特性：草姿は「ツキヒカリ」に近似するが、草丈は「ツキヒカリ」より優る。葉折れは「ツキヒカリ」と同程度であるが、葉先枯れは「ツキヒカリ」よりやや少ない。葉色は「ツキヒカリ」よりやや薄い。

2)生態的特性：苗床内並びに定植後の生育は旺盛で、「ツキヒカリ」および「北もみじ86」よりも優る。肥大期は、「ツキヒカリ」とほぼ同時期かやや早い。参考品種のサラダ用赤タマネギ「くれない」よりも1週間程度遅い。倒伏期は「ツキヒカリ」とほぼ同時期であるが、枯葉期はやや早い。抽台率は「ツキヒカリ」および「北もみじ86」よりもやや高い。

3)収量性：球肥大が良好で総収量は「ツキヒカリ」を6～19%上回る。規格内収量は「ツキヒカリ」と同等以上である。

4)球特性：変形・裂皮球がやや多い。球形は「ツキヒカリ」よりも扁平であるが、「くれない」よりも甲高である。球形の揃いは「ツキヒカリ」および「北もみじ86」よりもやや劣る。球の硬さは「くれない」よりもやや硬いが、「ツキヒカリ」および「北もみじ86」よりも15%程度軟らかい。皮色は「ツキヒカリ」および「北もみじ86」より薄い。りん葉は「ツキヒカリ」および「北もみじ86」よりも15～25%厚い。辛みの強さの指標となるピルビン酸生成量(EFPA)は「ツキヒカリ」よりも15%程度低い。

5)食味：サラダについては「ツキヒカリ」より辛みが少なく、甘味が強く、肉質も優れる。短時間(15分間)加熱したオニオンスープについては、甘味が強く、食味も優れる。

6)貯蔵性：貯蔵中の腐敗は「ツキヒカリ」と同等に少ない。貯蔵中の萌芽が遅く、茎盤突出が少ないので、貯蔵末期(4月)における健全率は「ツキヒカリ」と同等以上に高い。

7)その他：乾腐病に対する抵抗性は、抵抗性強の「ツキヒカリ」よりもやや低いと推察される。収穫期前後の腐敗(軟腐病、ボトリチス、虫害)の発生率も「ツキヒカリ」とほぼ同等である。

4.普及態度

従来の北海道のタマネギF₁品種では対応できなかった秋期から春期にわたる長時間出荷のサラダ用及び半調理(加熱時間の短い調理)用として、北海道のタマネギ栽培地帯での普及が見込まれる。栽培にあたっては、変形球及び裂皮球が発生しやすいので、根切り処理による枯葉の促進が必要である。

表 系統適応性検定場所および育成場所における主要試験成績(平成5～8年平均)

系統・品種	総収量 (kg/a)	同左 標準 対比(%)	規格内a 収量 (kg/a)	同左 標準 対比(%)	規格a 内率 (%)	肥大期 (月日)	倒伏期 (月日)	枯葉期 (月日)	貯蔵前 腐敗率 (%)	平均 球重 (g)	球形 指数	球の 硬さ	貯蔵後 健全率 (%)
道立花・野菜技術センター													
月交 18号	522	106	365	87	68	7.26	8.16	9.1	5.3	176	85	4.0	36
ツキヒカリ	495	100	418	100	84	7.27	8.16	9.3	1.9	161	95	7.0	39
北もみじ86	547	110	472	113	85	7.27	8.16	9.1	2.8	177	93	7.0	63
道立北見農試													
月交 18号	677	118	428	89	62	7.28	8.17	9.10	8.1	242	85	4.6	21
ツキヒカリ	574	100	486	100	85	7.29	8.17	9.11	9.5	211	97	6.0	22
北もみじ86	668	117	574	122	87	7.28	8.16	9.9	9.4	240	94	6.0	27
北海道農試													
月交 18号	776	119	717	129	92	7.28	8.9	8.28	1.9	243	78	7.9	80
ツキヒカリ	657	100	555	100	85	7.29	8.8	8.29	1.7	203	93	9.7	68
北もみじ86	811	125	700	128	87	7.27	8.9	8.31	1.7	250	90	9.3	82
北海道農試(富良野)													
月交 18号	892	173	779	107	88	-	-	-	2.1	283	76	-	77
ツキヒカリ	768	100	739	100	97	-	-	-	1.6	244	90	-	68
北もみじ86	906	119	865	119	99	-	-	-	1.9	285	83	-	83

a：規格基準が系統適応性検定試験場所と育成場所とで異なる(扁平の基準が、道立花・野菜技術センターおよび道立北見農試では球形指数の80以下、北海道農試では70以下)。

b：道立花・野菜技術センターおよび道立北見農試では、触感による9段階評価、北海道農試では硬度計による測定値。

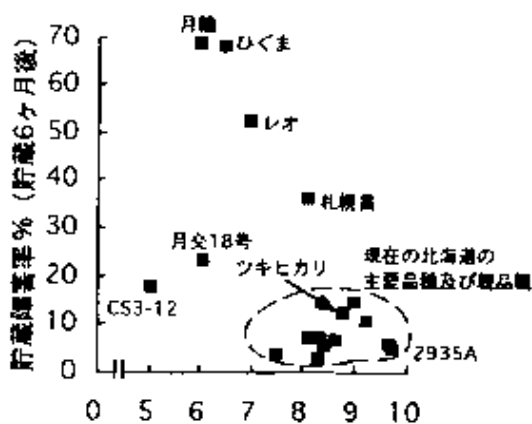


図1 球硬度和貯蔵性の比較
(平成6年 北海道農試)

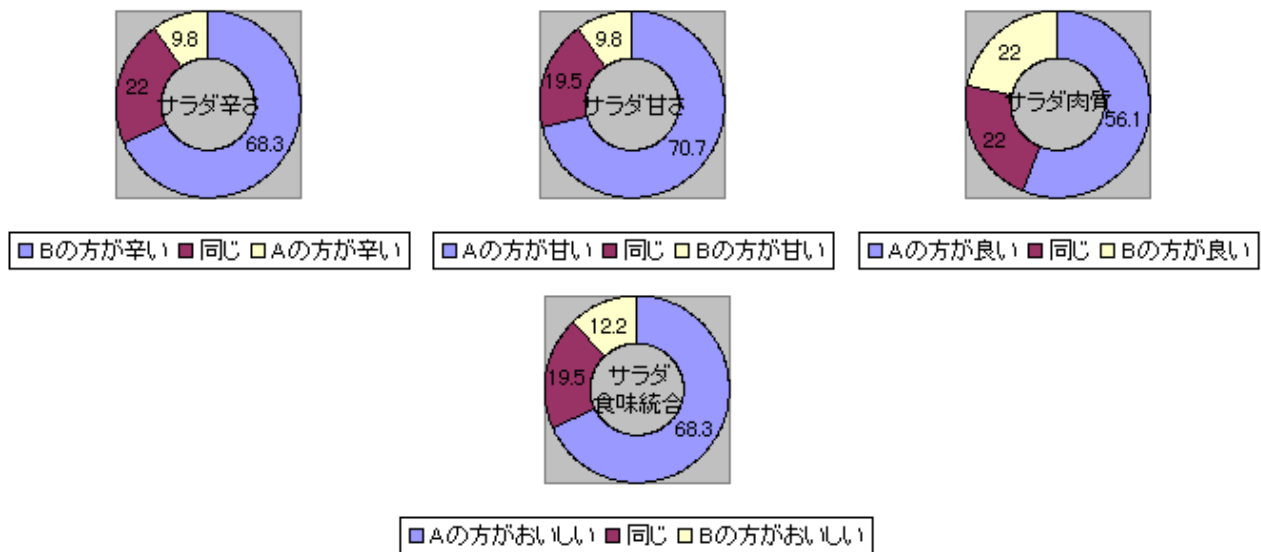


図2 食味比較試験

41名のパネラーにより、「月交18号」と「ツキヒカリ」の食味(サラダ)を比較した。A(月交18号)とB(ツキヒカリ)を比べてどちらが**1)辛**いか、**2)甘**いか、**3)肉質**が良いか、**4)食味**が良いかの4点について評価した。試験は平成6年に石狩中部地区農業改良普及センターおよび北海道農試で行った。

[目次へ戻る](#)